

行 嘉 谷
編 脩 身 兒 訓

浪華文會藏版

159

17

館 書 圖 京 東				
冊	號	架	函	類
			八	十
			部	新
				書
				門

K110.1
99d
1

K110.1

99d

龜谷省軒編

脩身兒訓

大阪

浪華文會藏版



修身兒訓序

易自蒙以養正

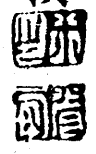
未開邪正之分

夫蒙者幼穉蒙昧智識
濡染無非格言善行而邪僻不得入其
中焉。是謂之善養蒙也。余生西海之陬。
幼不得聞道。長好詞章。亦奔走乎功名
之途。今也頭髮皓然。閱歷已深。於是乎
取經子潛心讀之。半世所為。其可悔者

甚多。乃欲進修以少過。而未能。是雖緣資質魯鈍。亦坐童習無素也。昔者山崎闇齋著大和小學。貝原益軒作大和俗訓。初學訓諸書。其言諄諄。導人極博。今余撰此編。豈敢比二賢。然僻邑之士。或將有資焉者也歟。

明治庚辰冬十二月

省軒龜谷行撰



修身兒訓卷之一

龜谷行編

第一章 孝弟

○能く父母より事ふる之を孝

と謂ふ

○能く兄小事ふ弟之代悌と

謂ふ

○孝悌ハ身を立つるの本なり

○孝悌を行ふも愛敬哉主
と云

○愛とは人を以つく

疎よりあはらざる也

○敬は人をあはまひて侮
らざる也

○己より年長せる者を都て

敬ふべし

○己より年少せる者も都て愛

を履

○弟と妹との尤も愛憐さ

○兄弟も我が同胞あり

○和好して争ふことなきを

○父母に恩は山よりも高



○父母乃慈愛

を忘るべから

も

○孝養を盡は

る人の道あり

○孝子は天に

惠を受く

○父母召よ時ハ速ク母往ク

急

○父母乃命ヲ背ケズ

○父母誠メバ謹ク聽ク

○怒リ恨ミテ出ト有る

らず

○父母疾あら

む傍に侍ま

○背を撫で足

を摩り怠り



か履ば

○出入の必む父母亦告ぐ履

○告げずして遠く遊ぶを不可ふ

第二章 養生

○孔子曰く父母も唯其疾あるを是憂ふ

○養生を孝行此一端なり

○運動度小適つば疾少し

○大食は脾胃を損ふ

○不潔を健康小害あり

- 身體を數沐浴せよ
- 住處の日々を掃除せよ
- 酒や火酒を童児の害あり
- 藥を苦むも疾を利あり

第三章 師友

- 己が師たる者を都て敬ふ
如し
- 父母も吾と生み師は吾れ
教ふ
- 師不事ふ親を親より事ふ
如し

○位高くとも驕るる處のらじ
 ○長者と坐をふふを下席ふ
 著と處し

○長者と路ふ遇もむ必ず禮
 揖すべし

○路を行のば長者み後る可

し

○疾行して長者先つこせ
 勿れ

○善友の親志せ可し

○惡友も遠ざく可し

○朋友を欺く處の罪ぞ

- 朋友は信義成厚くすべし
- 朋友を學校より於て親しむ
- 學問を朋友に因て進む

第四章 學問及勉強

- 學問を人の才智を益に
- 學問の人乃徳義成長す

- 學ばざれば草木不同ト
- 學ばばまを牛馬も異ら

- 學問の心を一途不用ある
- べし

- 西諺より曰く二兎を逐ふ者



と一兔哉得を

○人を倦とも

勤むる

○勉強を天稟

此才も勝る

○人生は勉強

不在り

○西諺亦曰く勤勉ハ幸福の

母なり

○勤勉ハ忍耐ハ成程

○ラズキン曰く忍耐ハ快樂

乃根本あり

○風雪を経ば

まはるばる春も遇も

も

○西語と曰く

苦を以て樂と

とを以て成功身



み隨ふ

○安逸よ長ざる者ハ才を成

し難し

○スマイルス曰く貪苦よ遇

もざるハ人の不幸なり

第五章 言語

○學問をこゝ入も言行を慎む
る

○西語り曰く一斤は善行を
十斤の學問に勝る

○言ふ事の易と行ふ事の難

○西語り曰く拙る之行ふは
巧み言ふに勝る

○問ふ事あり答ふべし

○問ふ事なくも黙に處し

○人を笑へば人亦憎まら

○人校讖まど人亦怒まる

- 人を罵れを人可怒らふ
- 人可諂へを人よ笑とる
- 人の悪事ハ語ること勿れ
- 人可善事を苟と誹るふや勿れ

○楊子雲曰く言輕げきを憂

を招く

○西諺尔曰く口と財布を閉づる不利アリ

第六章 容儀 躬行

○朝を早く起ると父母の安否を伺ふ也

○必を手洗ひ口漱とす

○髪を櫛るべし亂る處から

に

○面ハ洗ふ處一垢ウク處

らむ

○坐する時ハ端正なれ

○股を開き足を伸ゆるも不

恭素也

○爐邊り坐せを火城弄にべ

あらむ

○車上ふ在りても眠ふ事勿

礼

○書籍を愛惜とづ

○書籍も汚し損ふふら

べ

○硯ハ時々洗ふ

○案は常に拂ふ

○壁ふも字を書く

○席下ハ墨を汚すべからむ

○故なくんバ鳥獸殺さる

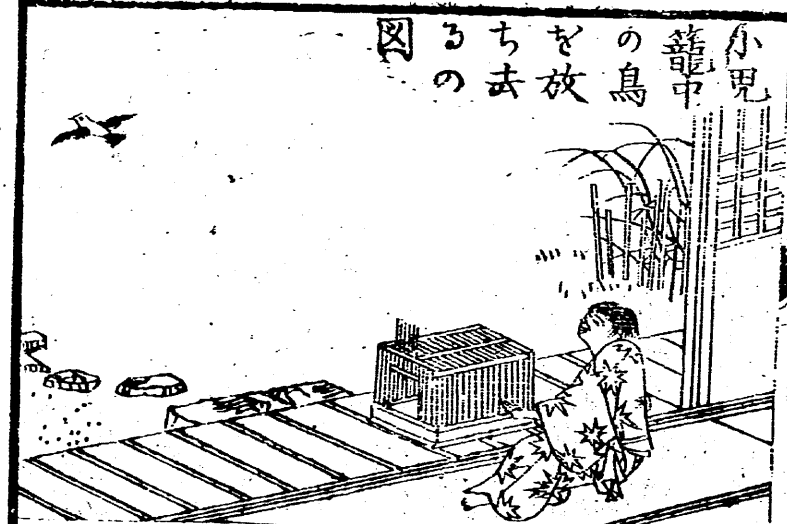
べ

○戯きハ魚鳥を害さる

母

○園裏の新花枝折るふやな

小兒籠中の鳥を放ち去るの図



のま

○籠中小飛禽

を養ふを休免

よ

○高木ふ上る

こと勿き恐ら

○皇の跌らん

○深淵を窺ふこと勿き恐ら

くも陥らん

○契約も輕く爲はふと勿

れ

○人との約は變むふこと

るう獲

○恩哉受むと忌むべからば
 ○人を恵みてハ念ふ處のら
 す

○飢くる者亦と飯を與ふ處

○渴したる者亦ハ湯水を施

まづ

○碁と將碁を耽るべからば

○賭博を必らず為るとるべからば

○人化物は決して盗むべか

らす

○盜竊乃辱と終身消えぬ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

浪華文會

- 人の財を羨むる處からむ
- 己が財を費ふこと勿れ
- 行儀を正しく守るべし
- 父母の譽を顯さん

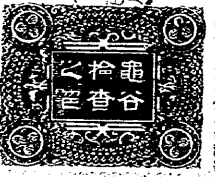
修身規訓卷一終

明治十三年十一月廿五日版
 明治十七年十二月廿一日再刷
 定價金五錢五厘

浪華文會

浪華文會

浪華文會



分板人

浪華文會

大阪浪華文會
 浪華文會主

龜谷
行編
修身兒訓

浪華文會藏版

二

東 京 圖 書 館				
			八	新
			十	書
			之	門
			部	
冊	號	架	函	類

K1101
34
2